



あした

明日もしあわせ通信 (第65号) 令和3年11月号

之を好む者は、之を楽しむ者に如かず

『之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず』(出典:論語雍也篇)とは、「物事を知識として知っている者は、これを愛好する者には及ばない。さらに、これを愛好する者は、楽しんでこれと一体になっている者には及ばない。」という意味ですが、この夏、実に楽しそうな笑顔で競技する一人の選手に、目が釘付けとなりました。

その選手とは、東京オリンピック女子ボクシングフェザー級に出場した入江 聖奈(いりえ せな)選手です。彼女が控室から戦いのリングまで向かう姿が、何度もテレビで放映されましたが、どの試合前でも彼女は満面の笑顔で、にこにこ実楽しそうに笑っていました。

笑顔のおかげもあってか、彼女は勢いに乗って勝ち進み、とうとう金メダルを獲得しまし

た。そして、鳥取県出身の選手としても、史上初めての金メダリストとなりました。

試合後のインタビューでは、「本当はめちゃくちゃ緊張していて、ご飯ものどを通らないくらいだったんですけど、入場だけは笑顔で行こうと決めていました。」と秘密を明かし、周囲の人を笑顔にしていました。

この姿を見ていて改めて思ったことは、楽しみながら競技するアスリートは、結果的により高い境地に到達したり、より良い記録を樹立したりすることができるのではないかと、そして、子どもたちを指導する立場の人には、技術だけでなく、その競技を楽しむことをぜひ教えてほしいということでした。

以上「ことわざシリーズ③」でした。

(EF)



～はばたき教室～ (子どもが一步を踏み出す教室)

～自分の好みの本を見つけよう～

「最近の子は本を読まない。」とよく言われています。しかし、特に中学生は、読書を避けているわけではなく、勉強に部活に忙しい毎日で、ゲームや息抜きもしたいとつぶやいています。読書をした方がいいという意識はあっても、そのために使える時間はとても少ないのです。これが、中学生の現状です。また、「どんな本を選んでいいかわからない」と感じているのも確かです。だからこそ、貴重な時間の中での読書が充実したものであって欲しいと願い、はばたき教室では「伊予市立図書館」に意図的に通い、本に親しむ機会を持っています。

子どもたちは図書館に通うことで、沢山の本がある環境と出会います。そこで、まずは面白そうな本を手にとって読み、あまり面白くなかったら、また別の本を・・・と、自分で本を見つける楽しさも味わっています。

図書館で面白そうな本を見つけたら、何冊か選んで読んでいるうちに、自分の好みや本の面白さがきつと見えてくると思います。読書の秋です。皆さんも本を読みませんか。

はばたきのTEL 089-989-5022 直通の携帯 080-2974-4581



(好みの本を発見したよ。)

小さく生まれた赤ちゃんと 家族のサークル♥Little rainbow

『リトルレインボー』は、早産で小さく生まれた同じ境遇のお母さんが、ありのままの想いを伝え合う事で気持ちの共有ができる場所です。大丈夫、お母さんは一人じゃないんだから、とお母さんの心が少しでも軽くなり前を向いて歩いていけますように、との想いで作られました。子どもが小さく生まれても大丈夫だったと笑顔で思えるような未来になって欲しいと願って活動をしているサークルです。詳しくはHPで紹介されています。

「その子が咲かせられる花は必ずある」
「うちの子は元気で天才！というマインドをずっと持ち続ける。」など
我が子のありのままの姿を受け止め、『成長を待つ子育て』が親の楽しみであるのかなと教えられます。

「生きていることを当たり前と思わない子育ては、気苦労は多いけれど素晴らしい奇跡の積み重ねだと思えます。」というお母さんの声や可愛いお子さんの笑顔に、居てもたってもいられず、何かお手伝いできることはないのか？活動を応援したい！と思う毎日です。（K）



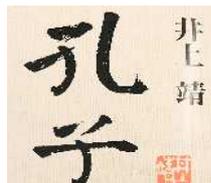
センター長のつぶやき

最近の読書から(1) 「孔子」

この作品は、井上靖が、がん闘病中に仕上げた最後の作品である。2500年前に、孔子と弟子が黄河の流域に旅に出る。その時、身の回りの世話をするために同行したのが篤薑(えんきょう)だった。彼は、孔子や高弟が亡くなって、一人山深い里で生活し、そこへ孔子研究会の面々が訪ねてきて教を乞う。そんな物語から孔子の人間像が浮かび上がる。

ラストシーンでは、「激しい夕立でございます。…皆さん内部へお入りください。…私の方は縁側に坐らせていただきます。…いまも、私の斜め前には子(孔子)がお坐りになっていらっしゃる。…烈しい雨、烈しい雷鳴、烈しい雷光！でもどうぞご心配なく、…このような時、いつも子がなされたように、私たちも心と容(かたち)を改めて、天地の声に耳を傾けて、静かに坐っております。」と。

井上靖が、人生の最後に伝えかったことがこの作品に集約されているに違いない。子(師)も亡くなり33年がたった。



しかし、師の真実を伝えるのは、私しかない。私の考えや行動が師に褒めていただけるか、いつも師をいさきながら生きていく、それが最高の人生なのだと。

私には、師が母と重なって感じられてならない。
(DOIG)

《巡回発達相談》

「ずいぶん伸びてますね。」心理判定員の先生が笑顔で発達検査の結果を伝えてくださり、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

この子のお母さんから「療育機関からのアドバイスを頑張って実行しています。」とお聞きしていたのです。

私たち巡回相談員は、巡回訪問で園の先生から子どもの様子を聞き、子どもと関わり、面談でお母さんの悩みを聞き、何か支えることはできないかを考えて、いつも勝手に心配しています。それだけに子どもさんの成長を耳にすると嬉しさひとしおです。

この嬉しい気持ちで、検査結果をお伝えし、次のステップに繋げていきたいと思えます。少しでも子どもさんの健やかな成長のお役に立てればと思っています。(A)



伊予市子ども総合センター
〒799-3127 伊予市尾崎3-1
伊予市総合保健福祉センター2階
☎989-6226